

平成29年度 決算が まとまりました

2年連続の経常赤字、 日頃の健康管理・病気の早期発見に 心掛けてください

平成29年度 収入支出決算概要表

健康保険

収入

科目	決算額(百万円)
保険料	11,472
国庫補助金収入・雑収入等	21
経常収入合計	11,493
調整保険料収入	214
別途積立金繰入	600
財政調整事業交付金・他	955
合計	13,262

経常収支差引額 △116

支出

科目	決算額(百万円)
事務費	91
保険給付費	5,527
納付金	5,571
保健事業費	414
還付金・連合会費・雑支出	6
経常支出合計	11,609
財政調整事業拠出金・他	214
合計	11,823

介護保険

収入

科目	決算額(百万円)
介護保険収入	1,186
繰越金・他	314
合計	1,500

支出

科目	決算額(百万円)
介護納付金・他	1,326
合計	1,326

※四捨五入のため、合計の合わない箇所があります。

当健保組合の現況

平成30年8月末現在

- 事業所数 28社
- 被保険者数 男 11,103人
女 11,748人
計 22,851人
- 被扶養者数 計 16,211人
- 保険料率

健康保険 7.5%	事業主 4.8%
	被保険者 2.7%
介護保険 1.25%	事業主 0.625%
	被保険者 0.625%

平成30年7月24日に開催された当健保組合組合会において、平成29年度決算が可決・承認されましたので、その概要をお知らせします。

1億円以上の経常赤字 積立金などで不足分に対応

当健保組合の平成29年度決算は、収入総額132億62百万円、支出総額118億23百万円、収支差引額14億40百万円となりましたが、経常収支においては1億16百万円の赤字で、28年度に続き2年連続の赤字決算となりました。

収入では、その大部分を占める保険料が、編入事業所の被保険者増加を反映して前年度比4億43百万円増加の114億72百万円となりました。

支出では、被保険者・被扶養者が増えたこととともない、病気やけがをしたときの医療費や出産などの各種給付金に使われた保険給付費が同比2億40百万円増加の55億27百万円となりました。

高齢者医療制度への納付金は、同比1億37百万円減少し55億71百万円でしたが、保険料の約5割を占めるほど過重な負担となっています。

各種健診の費用補助や特定保健指導などに使われた保健事業費は、同比27百万円増加の4億14百万円となりました。

納付金の過重な負担が 財政悪化の要因に

平成29年度の経常収支が赤字となった最大の理由は、高齢者医療制度のしくみが現役世代に重すぎる納付金負担を強いていることにあります。

健保組合の財政は納付金支出によって左右され、保険料で支出をまかないきれない場合は、積立金からの繰り入れなどで対応しています。

当健保組合は国から急激な負担増を緩和するための補助金を交付されたことにより総収支差引額はプラスとなりました。

しかし、納付金は年々増加傾向にある一方、積立金は取崩せばなくなること、補助金は国の予算次第であることから、いずれも確実な財源とはいえません。今後、高齢化が進み、中核となっている被保険者層の総報酬額・保険料収入減と、被扶養者も含めた医療費増による収支悪化も懸念されます。

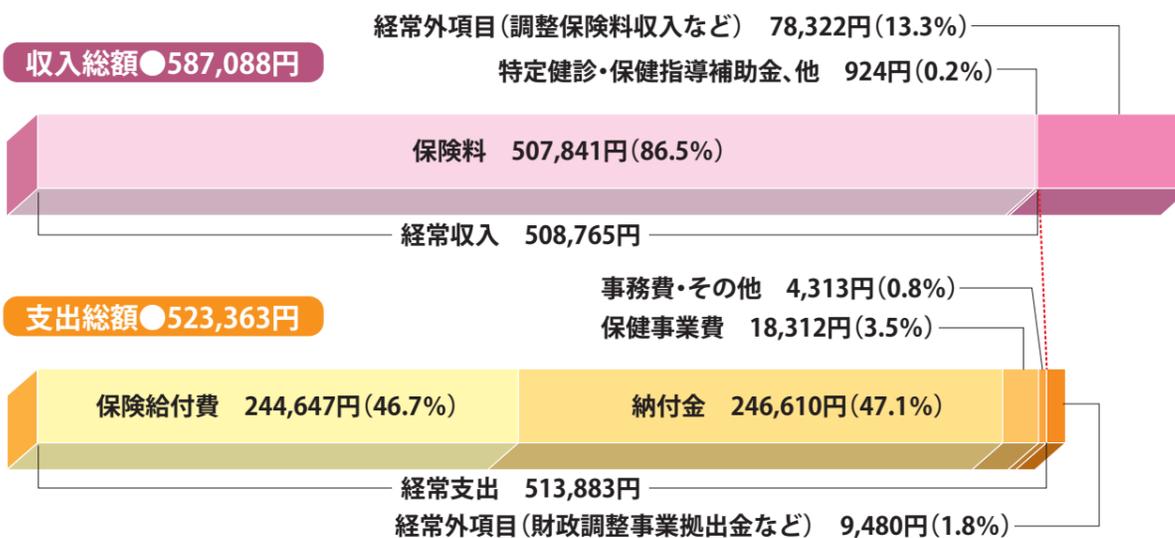
みなさんには、健保組合をめぐる情勢をご理解いただき、病気の早期発見につながる定期的な健康診断と医師等の指導に加え、「日ごろの運動習慣」「バランスの良い食事」「しっかり休養」など、今すぐ生活の質の改善に取り組み、生涯医療費の抑制に努めてください。

ご協力をよろしくお願いします。

介護保険料の見直し

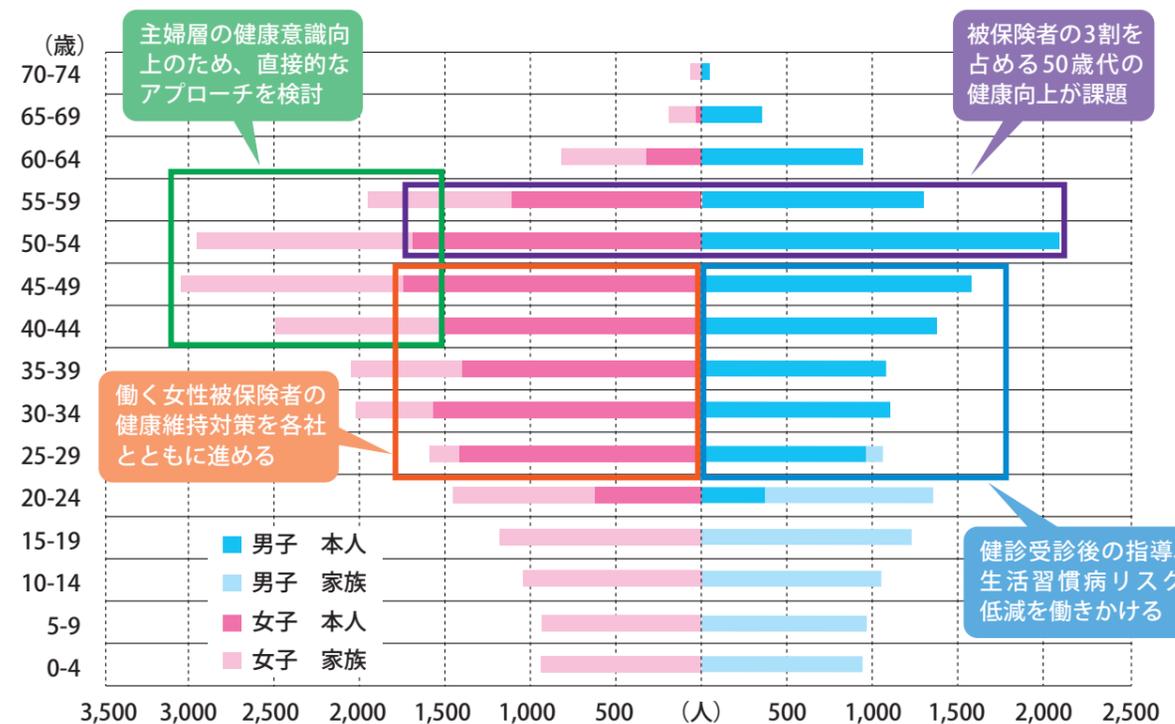
介護納付金の算出基礎が、段階的に総報酬割に移行(～2020年)するため、当健保組合では納付金が増加します。これに見合う保険料をいただくため、平成30年度は保険料率を1.15%から1.25%に引き上げております。来年度の保険料率は、納付見込額に基づき予算策定までに精査・検討のうえ、来年2月開催予定の組合会で審議・決定しますが、1.4%程度を想定しております。

平成29年度決算を1人当たりでみると… ()は収支の割合



年齢階層別組合員数と健康課題

平成30年3月



組合会議員

任期：平成33年4月16日まで

(平成30年8月31日現在) (敬称略)

氏名	役職名	所属	氏名	役職名	所属
氏名等はお配りした「Sawayaka」でご覧ください。					